

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: **08237852 A**

(43) Date of publication of application: **13.09.96**

(51) Int. Cl

H02G 15/113

(21) Application number: **07063480**

(22) Date of filing: **28.02.95**

(71) Applicant: **TOTSU SOKEN:KK NIPPON
TELEGR & TELEPH CORP <NTT>**

(72) Inventor: **SASAKI KOHEI
YAMAMOTO TOSHIHIRO
HATTORI TADASHI
MINESHIMA KINSHI
YAMAGIWA KOJI
OKAMOTO KOJI**

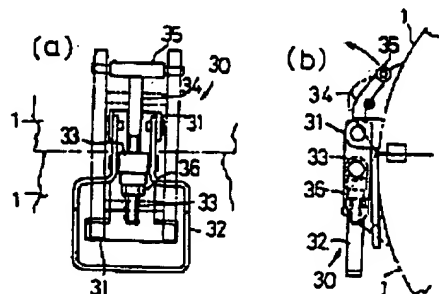
(54) FASTENING DEVICE IN CABLE JOINT CLOSURE

(57) Abstract:

PURPOSE: To provide the low cost construction of a fastening device which facilitates the improvement of the performance of fastening and holding the junction surfaces of divided cable joint housings, improvement of the safety and airtightness and the significant improvement of the assembly workability.

CONSTITUTION: Butt-junction surfaces are formed in a sleeve 1 so as to divide the sleeve 1 into two divided sleeves in a longitudinal direction. The respectively facing junction surfaces of the divided sleeves are integrally linked with each other by fastening means to constitute a closure. A hinge mechanism is provided on the one side of the longitudinal direction of the sleeve 1 and the other side is fastened with a buckle 30. Further, additional tightening is applied. With this constitution, the butt-junction and fastening of the divided sleeves can be performed easily, the covering and housing work of a cable joint can be operated very quickly and the highly reliable airtight sealing can be maintained.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO



This Page Blank (uspto)

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平8-237852

(43)公開日 平成8年(1996)9月13日

(51)Int.Cl.⁶

H 0 2 G 15/113

識別記号

庁内整理番号

F I

H 0 2 G 15/113

技術表示箇所

審査請求 未請求 請求項の数 2 F D (全 10 頁)

(21)出願番号 特願平7-63480

(22)出願日 平成7年(1995)2月28日

(71)出願人 000220572

株式会社トーツー創研

東京都目黒区碑文谷1丁目25番17号

(71)出願人 000004226

日本電信電話株式会社

東京都新宿区西新宿三丁目19番2号

(72)発明者 佐々木 皓平

東京都目黒区碑文谷一丁目25番17号 株式
会社トーツー創研内

(72)発明者 山本 敏弘

東京都目黒区碑文谷一丁目25番17号 株式
会社トーツー創研内

(74)代理人 弁理士 薬師 稔 (外1名)

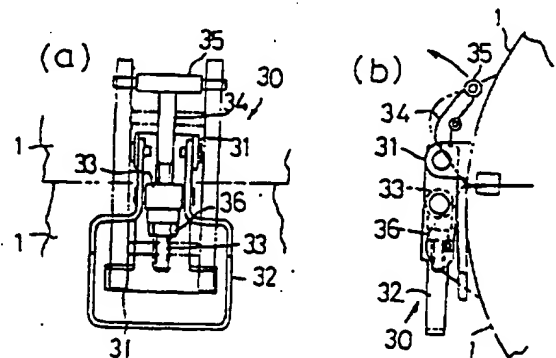
最終頁に続く

(54)【発明の名称】 ケーブル接続用クロージャにおける締結装置

(57)【要約】

【目的】 ケーブル接続部収容体の分割接合面の締結保持の向上を図り、安全性と気密性をも高めると共に、組立て作業性を大幅に向上できる安価な構造とする。

【構成】 スリーブ1の軸方向に縦割りに二分割する突き合わせ接合面を形成し、該分割スリーブの互に対向した接合面を締結手段で連結一体化したクロージャにおいて、前記スリーブ1の長手方向の片側をヒンジ機構とし、他側をバックル30で締め付け接続すること、さらに増し締めすることにより、スリーブの接合面を突き合わせて締め付けることが簡便にでき、ケーブル接続部の被覆収容作業を著しく迅速に行え、スリーブでの信頼性の高い密封を確保できる。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 ケーブル接続部の周囲を覆い、ケーブルを導出する円筒状のスリーブを軸方向に二分割する突き合わせ接合面を形成し、該分割スリーブの互いに対向した接合面を締結手段で連結一体化したクロージャにおいて、前記締結手段が、一方のスリーブから他方のスリーブに掛止される掛止部材と、該掛止部材を回動自在で進退自在に備える回動部材と、掛止部材の進退位置を規制するロック片とから構成され締め付けと、増し締めするためのバックルとして備えたことを特徴とするケーブル接続クロージャにおける締結装置

【請求項2】 前記バックルが、ブラケットに枢着したハンドルと、該ハンドルに設けた回動部材に嵌挿したネジ杆の一端に一方のスリーブに嵌支できるピンまたはフックを設けたものからなり、ブラケットを他方のスリーブに固着して、両スリーブの分割面を締結し、さらに前記ネジ杆に螺合したナットのロック片でピンとブラケットとの間隙を増減できる請求項1記載の締結装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】 本発明は、光ケーブルなどの通信ケーブルの接続部を保護するためのクロージャ、特に光ケーブル用クロージャにおける締結装置の改良に関するものである。

【0002】

【従来の技術】 一般に、ケーブル接続用クロージャは、ケーブル接続部の両側のケーブルを貫通して取付けられた端面板と、前記接続部をかぶせて収容する縦割りの円筒状のスリーブとからなり、両端面板間にスリーブを装架して、該スリーブの互いに対向した分割突き合わせ部分をボルトまたはバンドなどの固定手段で連結して一体化し、ケーブル接続部を気密に保護する構造のものが多用されている。

【0003】 従来のケーブルの接続部を保護する収容体のスリーブは、スリーブの変形防止の剛性を保ち、湿気の浸入を阻止しなければならないために、スリーブの各構成部分は互いに密に結合され、かつケーブル端との間の結合も密でなければならず、ボルトやバンドの固定手段では気密正保持が満足できず、しかも気密材を設けたケーブル収容体は、製作煩雑で高価となり経費を要するし、耐久性の面でも問題があり、気密確保のために締め付け力の管理や組立作業性が煩雑となって悪く問題があった。本発明は、これら従来の欠点を排除しようとするもので、ケーブル接続部の分割収容体の締結保持の大巾の向上を図り、安全性と気密性をも高めると共に、気密確保のための締め付け力の管理を容易化し、組立作業性を大幅に向上できるケーブル接続用クロージャにおける締結装置を構成簡単で安価な形態で提供することを目的とするものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 本発明は、ケーブル接続部の周囲を覆い、ケーブルを導出する円筒状のスリーブを軸方向に二分割する突き合わせ接合面を形成し、該分割スリーブの互いに対向した接合面を締結手段で連結一体化したクロージャにおいて、前記締結手段が、一方のスリーブから他方のスリーブに掛止される掛止部材と、該掛止部材を回動自在に進退自在に備える回動部材と、掛止部材の進退位置を規制するロック片とから構成され締め付けと、増し締めするためのバックルとして備えたものである。

【0005】

【作用】 ケーブルをスリーブ内の接続機構に接続してから下スリーブのガスケット溝にガスケットを挿入して、端面板ガスケットになじませてから、上スリーブをかぶせ、スリーブ相互を押えつけて中央部分から外へ相互に締結装置を順次締めつけ取り付けて、所定のトルクで数回に分けて締結し、締結装置の各ボルトの増締めで組立てられ、ケーブルシール材や端面板の取付け姿勢を安定強固にすると共に、密封性も大幅に高められ、バルブより注入されたガスによってクロージャとして安全に用いられるものである。

【0006】

【実施例】 本発明を図1乃至図17の円筒状のスリーブ1の側面嵌合部2に嵌装された端面板3を備えた例で説明すると、端面板3、3間に、幹線光ケーブルが貫通されてケーブル把持金具4で固定されていて、該ケーブルのテンションメンバは、テンションメンバ把持金具5に接続連結されている。前記分割スリーブ1は円筒状のハウジングで、軸方向に沿って両側が分離接合面で上下に分割できるようにしたもので、合成樹脂、例えばPP樹脂或いはガラス繊維を充填した難燃性のFRPP或いはスチレン系、またはオレフィン系の熱可塑性エラストマーなどから構成され、軸方向に縦割りに二分割する突き合わせ接合面と、該スリーブ1の両端に、嵌装される端面板3、例えば耐候性、耐オゾン性等の諸特性に優れたEPDMなどのゴムスペーサとを備え、該端面板3にケーブル挿通孔20を少なくとも一つ形成し、該ケーブル挿通孔20に孔を覆い切離しする薄肉キャップ部21を備えると共に、ケーブル挿通孔20に連通するスリット22を端面板外側面に貫通して設けて、スリット22で切開された端末を拡開するように構成してあり、この端面板3の対面する接合面を含み、前記スリーブ1の分割接合面にガスケット7を嵌合挟持する凹溝6を備えると共に、端面板3に対向する内面に、ケーブル外周に沿う押え挟持片からなるケーブル把持金具4と、テンションメンバ把持金具5およびテンションメンバ把持金具9とを設けた連結金具8を固定装備し、さらに分割スリーブ1の対向した接合面を締結装置30で連結し、かつ前記スリーブ1の外周にネジからなる締結具11のあるバンド12を着脱自在に巻回配備し、分離面での密封性が高

められて連結できるようにしてある。

【0007】前記スリーブ1、1の分割接合面の密接固定化には、図2及び図3の如く、スリーブの分割縁部の長手方向の片側をピンの引掛ヒンジ27と挿入穴とからなる脱着ヒンジとし、他側を締結装置のバックル30にて締め付け可能にすることで、作業性の向上を図り、また、ヒンジ側のスリーブ凹溝6に設置したスリーブガasket7が、ヒンジを支点としてスリーブ1を閉じる方向に回転することにより、自動的に上下スリーブ1、1の凹溝6に収まるようにすることもできる。なお、ヒンジ機構としては、上下スリーブ1に固着したり、一方のスリーブにピンを長手方向に装着され、他方のスリーブに挿入孔を対設して脱着することが選べる。

【0008】前記バックル30としては、図5乃至図8に示すようにフックを引掛け、ハンドル操作によるワンタッチで上下スリーブ1、1を所定の寸法まで締結後に、さらにその寸法を接近できる増し締め機構、例えば、ネジ杆とナットを備えて調整できるようにしたものをを用いるのがよい。

【0009】図5の例では、バックル30としてブラケット31に枢着したハンドル32と、該ハンドル32に設けた回動部材33に嵌挿したネジ杆34の一端に一方のスリーブ1に嵌支できるピン35を設けたものからなり、ブラケット31を他方のスリーブ1に固着して、両スリーブの分割面を締結し、さらに前記ネジ杆34に螺合したナット36の回動で、ピン35とブラケット31との間隙を増減できるようにしてある。

【0010】図6の例のバックル30は、図5の例と同様であるが、ピン35に代えてフック部37をネジ杆34に設けて、スリーブ1に設けたピン38に掛止できるようにしてある。また図7のバックル30では、ブラケットとハンドル32を兼用した例で、ハンドル32をスリーブ1に枢着ピン39で回動自在に定着し、該ハンドル32に設けた回動部材33に嵌挿したネジ杆34の一端にフック部36、他端にナット36を螺合して締結、増締できるようにしてある。

【0011】図8のバックル30は、図7の例と同様で、ネジ杆に代えてフックアーム40を用いフック部36にピンと、長孔とで摺動自在にコマとなる引掛部材42を設けて、ネジ41でコマ位置を変え締結、増締できるものとしてある。

【0012】なお、図5乃至図8の各例において、各バックル30はバンドに固定してバックルバンドとして用いられる構成としても有効な締付具となる。

【0013】前記バンド12としては、スリーブ1に巻回できる帯状金属板などで形成され、その両端にフックを設け、該フックに係合された係合片を介してボルト11が螺合されてフック間を接離自在に連結できるようにしてあるが、スリーブ1の外周にリブ(図示せず)を突設して、リブ間の凹部にバンド12を巻回装着して外れ

防止に役立たせることも配慮される。

【0014】前記スリーブ1は、上下に分割可能な形態として端面3間にシール材を介在させて、前記スリーブガasket7と共に、クロージャ内の気密性を維持できるようにしてあり、互いに対向した接合面を締結手段で連結一体化できるようにしてある。即ち、スリーブの長手方向の片側を固定ヒンジまたは脱着ヒンジのヒンジ機構で連結し、他側に締め付けと、増し締めできる締結手段のバックル30とを備えてある。そして前記端面3としては、小判形或いは楕円形、円形などのゴム弾性体からなり、複数のケーブル挿通孔20にそれぞれ薄肉キャップ部21を有し、該薄肉キャップ部21を選択的に切除開口して貫通孔として用いるようになっていて、ケーブルを嵌挿しやすく水平面に対して傾斜したスリット22を有するケーブル挿通孔とし、該スリット22を挟んで両側に跨がって接続片24を嵌合保持する凹面部23に備えていて、スリット22にシール部材25を当てがって、接続片24により締結される構成となっていて、ケーブル挿通孔をクロージャの内外に貫通するようにしてある。(図9乃至図11)

【0015】なお、前記ケーブル挿通孔20、20で形成される貫通孔またはケーブル導出孔には、ゴム製などのスペーサ(図示せず)或いはエアタイトテープを巻き付けてケーブルの外周面を密着できるようにすることが配慮されている。

【0016】このスペーサは、ゴム弾性体を自然環境化で使用するので、環境温度に対応して収縮、膨張できるように、外周とスリーブ間、ケーブル挿入孔の内径とケーブル外周間に圧力変化に対応するスペーサを介在し、圧力変化を極力少なくすることで、圧縮応力の確保、低温収縮防止を図り、さらにスペーサはスリット加工してケーブル挿入しやすくし、外周面または/及び内周面にはリング状の山部を複数突出設けてある。前記端面3のケーブル挿入孔20に於いて、外径の異なるケーブルが挿入される場合、同一径の挿入孔で対応可能とするために、外径は挿入孔と同一とし内径はケーブル外径に対応したケーブルスペーサ43にてその内径、外径に山溝を設けて、ケーブルにセットすることで気密性を確保出来る構造とするのがよい。また、前記端面3の内面側に対向してスリーブ1に固着した連結金具8上の両端にケーブル把持金具4、4を取付ネジで、またテンションメンバを把持金具5に固定ネジで順次取付け、中央部に対のリング14、14のある収納用取付金具15、例えば収納トレイを設け、芯線を分配ガイドして接続できるように、テンションメンバ把持具9を配備しうるようにしてある。(図1及び図16)

【0017】さらに、前記ケーブル把持金具4としては、図15のようにケーブル挿通凹部16、のある受具16にケーブル外周に沿う彎曲保持片17をピン18で回動自在に設けて開閉させて、ネジ19でケーブルを挟

持固定化するようにしてケーブル把持が簡便にできるようにしてある。即ち、ケーブル挿通凹部16を一体で複数設けた受具16と、該受具16に着脱可能なピン18によるヒンジ機構を回転自在に枢着された彎曲保持片17と、彎曲保持片17を、前記受具16に脱着する取付ネジ19とから構成されてケーブルを把持できるもので、受具内面、彎曲保持片内面には山形状の凸起が複数設けてあり、ケーブル外被に噛み込んで把持力を得られるようにしてある。なお、前記彎曲保持片17は、受具16に着脱自在に設けた脱着構造とすることもできる。

【0018】また、テンションメンバ把持金具5に取付けたケーブルテンションメンバは、単穴或いは複数穴タイプを用いるが、取付板にアームを介してケーブル挿入部を1から複数まで設けたもので、スリーブ1内に固着されてケーブルを保持する。即ち、ケーブル外被を必要長さ剥ぎ取り、内部のスロットロッドを剥ぎ取り際から所定寸法で切断したのち、テンションメンバを所定寸法になるようスロットロッドをカッタ等を使用して裸にしてケーブルの接続の準備を終了させる。ケーブルの所定位置の外被を円周方向に研磨清掃し、ケーブルスペーサ43を嵌挿させたのち、端面板のケーブル挿入孔になる薄肉キャップ部21と斜スリット22を切除開口し、スリット端末を拡開してケーブルを挿入しケーブル挿入孔20に貫通させ、スリット部に山溝付のシール部材25を装着し、接続片24を嵌装してスリット22を閉塞保持させ、該端面板外周部のスリット部を覆うようにテーブ状ガasketをなじませるように接着させる。その後、ケーブル把持金具に必要なスペーサを用いてケーブル外被に装着し、締結ボルトにより所定トルクで締結してからテンションメンバをテンションメンバ把持金具5にテンションメンバ把持具9を用いて締結ねじにて必要トルクにて締め付ける。そして下スリーブに端面板を押しつけつつ、スリーブ1を締結してある。前記スリーブ1或いは端面板3にはバルブのあるガス注入口部(図示せず)を設けて、該ガス注入口部から封入ガスを注入してクロージャ接続部の保護を確実にするようにしてある。

【0019】このような構造の接続部を組み立てる場合、各ケーブルにスペーサ43を装着し、或いはケーブルシール材を巻き付け、ケーブルの端部の外被をケーブル把持金具4により固定したのち、端面板3の接合面にシール材及びスリーブ1の接合面にガasket7を介して分割スリーブ1、1の接合面を突き合わせて、該スリーブの外周にあるバックル30を締め付け、増し締めし、さらに締結具11のあるバンド12を巻回して締結具11を締め付けて固定するもので、順次所定間隔ごとにバックル30の取付けと、締め付けを繰り返してスリーブ1の全長にわたって気密維持を強固にし信頼性の高い密封構造にすることができる。なお、この組立状態において、縦割りの接合面間にはスリーブガasket7が

径方向に圧縮されていることで、比較的小さい挟持力で高い気密性を保持することができ、また端面板3とケーブルとの間にはスペーサが、ケーブル長さ方向に介在されシール材があって、スリーブ1、1の姿勢が安定すると共に組立てを容易にするし、気密性を著しく向上できる。このスリーブガasket7は、断面形状を長方形として角部に丸味をつけて、上下面に凹溝を形成してリップ効果を持たせるようにし、組立性・気密性の向上を図ることが考慮されている。

【0020】一方、前記スリーブ1、1の締結状態を解除するときには、締結具11のボルトを緩めてバンド12をスリーブ1、1から外し、バックル30の連結を解除して端面板3からスリット開き、止め用の接続片24を外し、スリーブ1の接合面を離間して分割すれば、ケーブルの交換も容易にすることができる。

【0021】前記スリーブ1の分割縁部には、図2のように対応して、引掛ヒンジ27、挿入穴28のヒンジ機構を設けて脱着できるようにしてあって、該引掛ヒンジ27を挿入穴28に現場にて嵌合後、バックル30を掛止してしめつけるだけで、上下スリーブ1、1が簡単に正合できるようにしてある。即ち、前記ヒンジ機構は、複数本のピンとそれらに対応する挿通孔とからなり、或いは複数の挿入孔に貫通する単一の支杆で固着または着脱自在に設けられている固定ヒンジまたは脱着ヒンジとする。

【0022】なお、前記端面板3としては、図9乃至図11のようにゴムスペーサで等径または異径の4穴のケーブル挿通孔20があって、六ごとにスリット22があり、その端末を開けることで、ケーブルを挿入嵌合できる形態となっていて、ケーブル挿通孔20の穴径とケーブル径の変化対応は、端面板3を介して行うようにしてある。前記スリット22の中間部にプラスチックで両面に山溝を設けた合わせ目スペーサが、挿入可能となる構造としてあり、斜めのスリット22は、ケーブルが挿入されない時は端面板3の片面と外周面が薄肉で塞がれてあり、ケーブル挿入時に挿入孔のキャップ部21を切除して開くことができ、作業性の向上と気密信頼性の向上をはかっている。前記スリット部を切除して使用する場合には、ケーブル挿入後、再度閉じる工程時に切除された外周部の開く作用やズレを防止するために開き止め金具としての接続片24が凹面部23に付設される。また、端面板3の最外周面は、全周に渡って複数の山溝26を設けてあり、スリーブ内面との圧縮力が得られて気密性を保つと共に、内部へ伝達される圧縮力によりケーブルとの気密性が得られるようにしてある。即ち、スリーブ1の嵌合部2と端面板3との気密保持機構は、端面板3の外周に山溝26を設け、バンドの締め付け力を入り口が受け山溝26に伝わって気密を保持できるようにし、端面板ガasketを不要として組立解体作業性を向上できるようにしてある。

【0023】図9の例では、等径の4穴タイプの端面
3であるが、側面嵌合部2と、前記ガasket7を嵌合
する凹溝6を周囲に備えたもので、図12及び図13に
示すような端面3を選んでスリーブ1との組立密封構
造としてもよく、該端面3には外周に全周にわたって
複数山溝26を設けて、スリーブ内面との圧縮力が得ら
れて気密性を保つと共に、内部へ伝達される圧縮力によ
りケーブルとの気密性を保つようにしてある。なお、前
記端面3に中央スペーサ29を必要に応じ設け、複数
のケーブル挿通孔20に形成した薄肉キャップ部21を
選択的に切除開口して貫通孔として用いるようになって
いて、さらにケーブルを嵌挿しやすく水平面に対して傾
斜した或いは平行なスリット22を設け、該スリット2
2を挟んで両側に跨がって接続片を嵌合保持する凹面
部23に備えていて、スリット22にシール部材25を当
てがって、接続片により締結される構成となっていて、
ケーブル挿通孔をクロージャの内外に貫通するようにし
てある。

【0024】図14に示すように、前記スリーブ1から
導出されるケーブルの周囲に備えられる中空円筒状のス
ペーサ43は、一方に拡開できるように該スペーサ43
の片側にケーブル差込み挿入用のスリット44を設ける
と共に、スペーサ43の内周および外周にリング状に山
溝45、46をそれぞれ備え、気密性の確保を容易に
し、かつ組立、解体性の取扱作業の簡便化をはかってあ
る。

【0025】前記心線取付金具15の収納トレイは、図
16に示す如く1テープ毎に固定方式として5〜20テ
ープ/1トレイの実装ができるようにし、この収納トレ
イを多段に重積しヒンジ部で連結して必要トレイの位置
が開放でき作業性を向上できるようにしてある。なお、
前記スリーブ1としては、長手方向に沿って縦割りで上
下に二分割される半円筒体の対で構成され、スリーブの
分割接合面に行くに従って厚肉部に形成し、かつ外接合
面に凹溝6を備えていて気密性の維持を確実化できるよ
うにしてあるが、前記端面3を省略したケーブル直接
挿入形状とすることも選んでできる。

【0026】また、前記スリーブ内に設けられるケー
ブルテンションメンバ把持具51は、図17の如く、ケー
ブルを嵌挿する挿通部47を単数または複数アーム48
を介して取扱板49に備え、前記挿通部47に固定締付
ネジ50を備えたものを用い、前記テンションメンバ把
持金具5に取付けて1本または複数本のケーブル中心の
テンションを掛けた装備が容易にできる。

【0027】なお、前記バンド12に設けた締結具11
としては、図18に示すように、ブラケット12にハ
ンドル11を回動自在に枢着すると共に、バンド12
のフック12に係止できる係止杆11のあるストレ
ート状の締付ネジ杆11をハンドル11に枢着した
ものを用い、ハンドル11を旋回してバンド両端を連

結締め付け、前記締付ネジ杆11を回動して増締めが
できるようにした構成として、スリーブ1の締結を確実
にし取扱いも簡便化するようにしてある。

【0028】図19の例では、スリーブ1、1の分割面
側縁に突設された一对の係止頸部11、11にそれぞれ
嵌支されるハンドル52と掛止ピン55とを、回動部材
53を介してネジオチ54で連結したバックル60を締
結装置として使用した例で、前記掛止ピン55を一方の
スリーブ1の係止頸部11に引っ掛けてハンドル52の
一端52を他方のスリーブ1の係止頸部11に臨まし
めて、ネジオチ54を回動して係止ピン55と回動部材
53との距離を調整して、ハンドル2の一端52が前
記係止頸部11に嵌入、嵌脱できるようにし、両スリー
ブの分割面を接合締付け、或いは分離自在としてある。

【0029】

【発明の効果】本発明は、ケーブル接続部の周囲を覆
い、ケーブルを導出する円筒状のスリーブを軸方向に
二分割する突き合わせ接合面を形成し、該分割スリーブ
の互いに対向した接合面を締結手段で連結一体化したク
ロージャにおいて、前記スリーブの長手方向の片側をヒ
ンジ機構で連結し、前記締結手段が、一方のスリーブか
ら他方のスリーブに掛止される掛止部材と、該掛止部材
を回動自在で進退自在に備える回動部材と、掛止部材の
進退位置を規制するロック片とから構成され締め付け
と、増し締めするためのバックルとして備えたことによ
り、スリーブの接合面を突き合わせて締結具で締め付け
ることが簡便にでき、ケーブル接続部の被覆収容作業を
著しく迅速に行うことができ、しかも少ない締め付け個
所でスリーブ全周にわたって均一に圧迫して信頼性の高
い密封を確保できると共に、締結確保が増し締めによ
ってスリーブの姿勢も安定して取扱い良好で、組立作業の
容易化に役立ち、気密保持のための締め付け力の管理も
楽に安全に行え、ケーブル接続用クロージャの構成もそ
れだけ簡単で安価な形態にすることができる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の実施例を示し、一部を分離し、切欠し
て内部を表した使用状態の斜視図である。

【図2】図1のスリーブの一部の分離斜視図である。

【図3】図2の正面図である。

【図4】図1の例の組立状態の一部切断側面図である。

【図5】図1の例のバックルの拡大図で、(a)は正面
図、(b)は側面図である。

【図6】バックルの他の実施例で、(a)は正面図、
(b)は側面図である。

【図7】バックルのさらに他の実施例で、(a)は正面
図、(b)は側面図である。

【図8】バックルのさらにまた他の実施例の側面図であ
る。

【図9】図1の例の端面の拡大図で(a)は正面図、
(b)はA-A線における切断平面図である。

【図10】図9のB-B線における切断側面図である。

【図11】図9の外側からみた側面図である。

【図12】端面板の他の実施例で、(a)は正面図、(b)は一部切断平面図、(c)は縦断面図である。

【図13】端面板のさらに他の実施例で、(a)は正面図、(b)は一部切断平面図、(c)は側面図である。

【図14】スペーサの一実施例で、(a)は側面図、(b)は正面図、(c)はY-Y線における縦断面図である。

【図15】図1の例のケーブル把持金具の正面図である。

【図16】図1の例の収納用取付金具で(a)は、側面図、(b)は、その平面図を示す。

【図17】ケーブルテンションメンバの一実施例で、(a)は正面図、(b)は平面図である。

【図18】図1の例の締結具を示し、(a)は側面図、(b)は平面図、(c)は作動状態を示す側面図である。

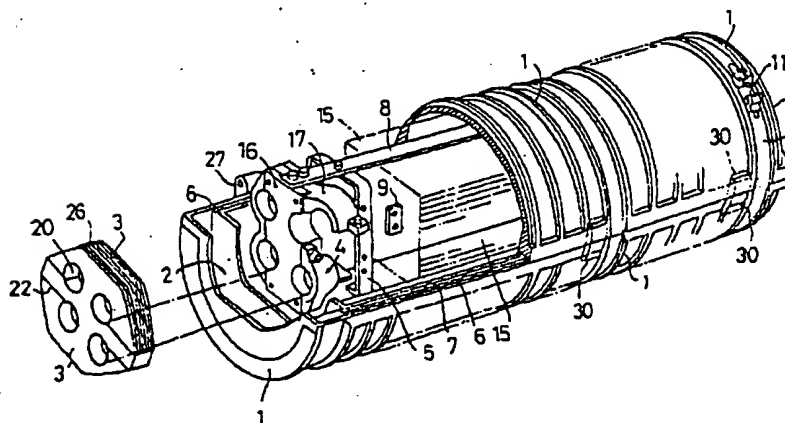
【図19】締結具の他の例で、(a)は正面図、(b)はその側面図である。

【符号の説明】

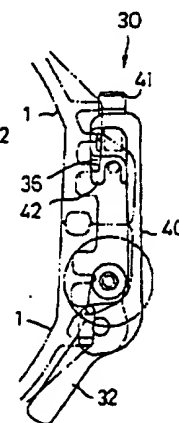
- 1 スリーブ
- 2 側面嵌合部
- 3 端面板
- 4 ケーブル把持金具
- 5 テンションメンバ把持具
- 6 凹溝
- 7 スリーブガスカート
- 8 連結金具
- 9 テンションメンバ把持金具
- 11 締結具
- 12 バンド
- 14 リング

- 15 収納用取付金具
- 16 受具
- 16₁ ケーブル挿通凹部
- 17 保持片
- 18 枢支
- 19 ネジ
- 20 ケーブル挿通孔
- 21 薄肉キャップ部
- 22 スリット
- 23 凹面部
- 24 接続片
- 25 シール部材
- 26 山溝
- 27 ヒンジ
- 28 挿入穴
- 29 スペーサ
- 30 バックル
- 31 ブラケット
- 32 ハンドル
- 33 回動部材
- 34 ネジ杆
- 35 ピン
- 36 ナット
- 37 フック部
- 38 ピン
- 43 スペーサ
- 45, 46 山溝
- 51 ケーブルテンションメンバ把持具
- 52 ハンドル
- 53 回動部材
- 54 ネジオチ
- 55 掛止ピン
- 60 バックル

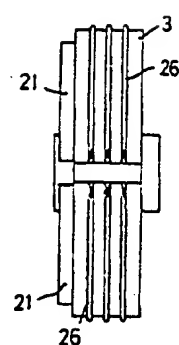
【図1】



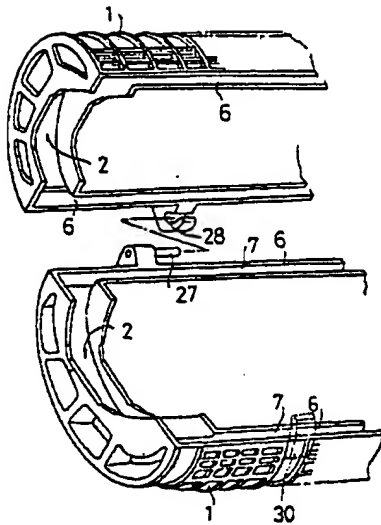
【図8】



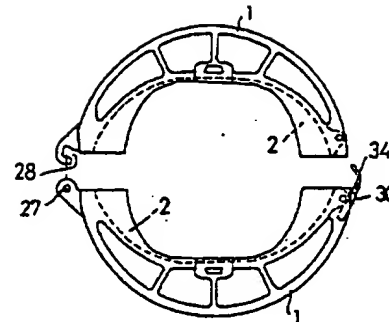
【図11】



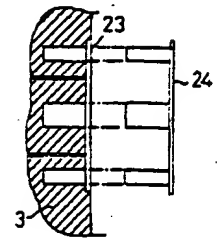
【図2】



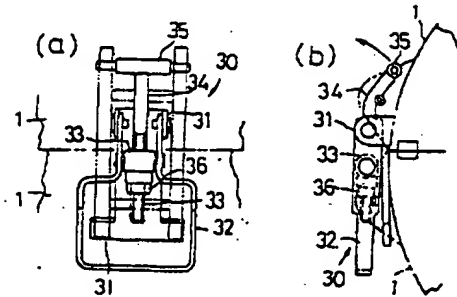
【図3】



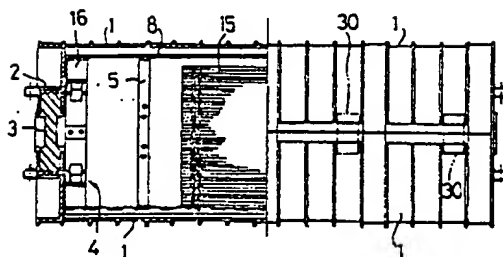
【図10】



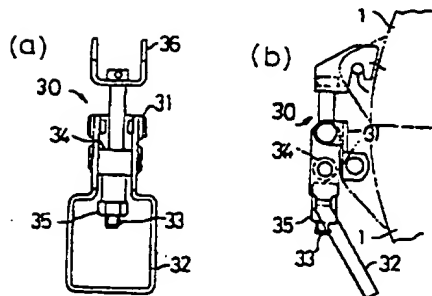
【図5】



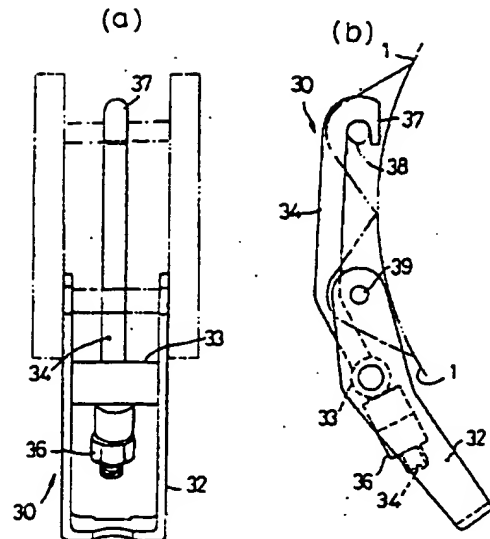
【図4】



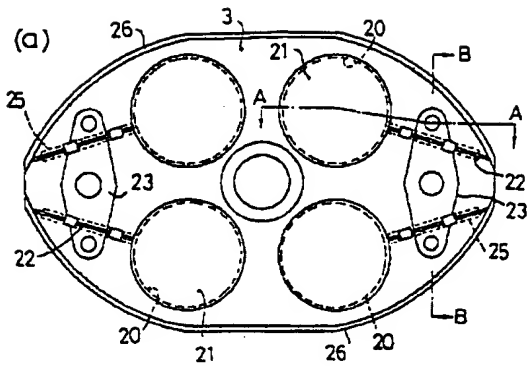
【図6】



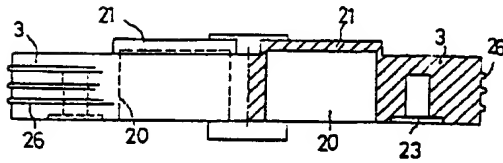
【図7】



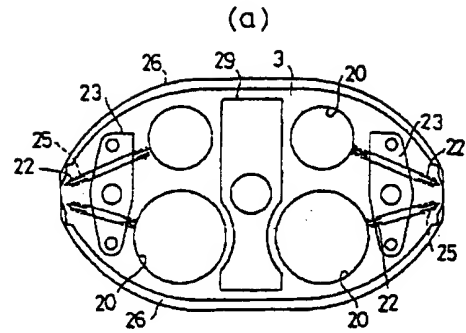
【図9】



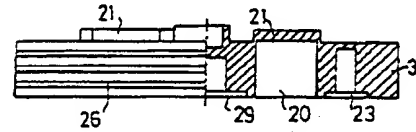
(b)



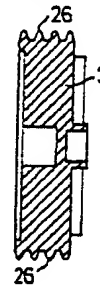
【図12】



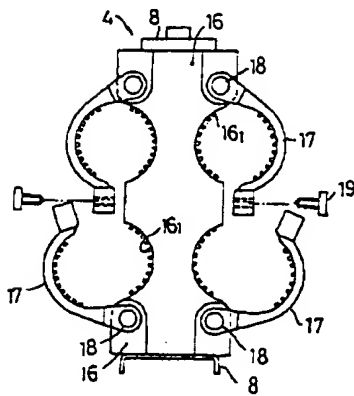
(b)



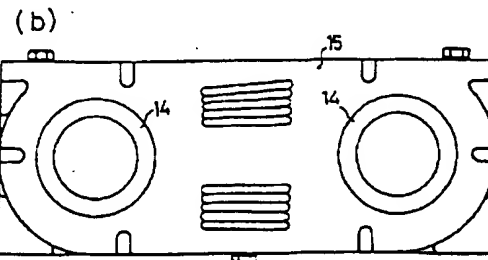
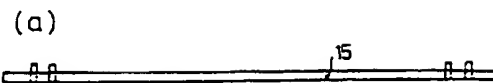
(c)



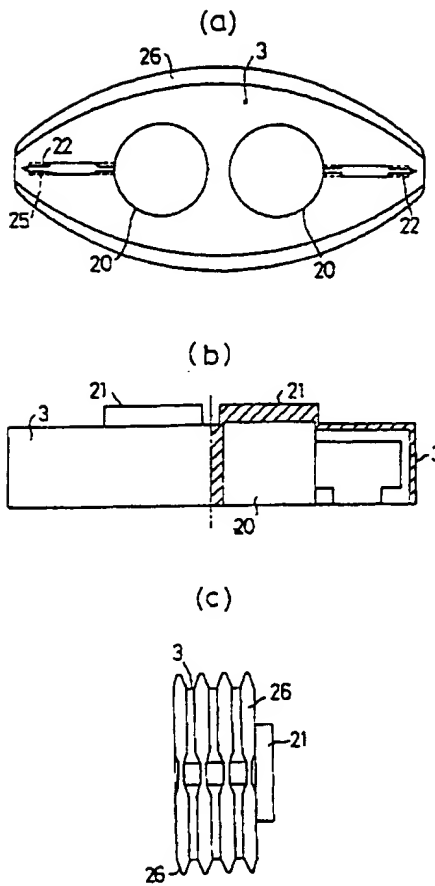
【図15】



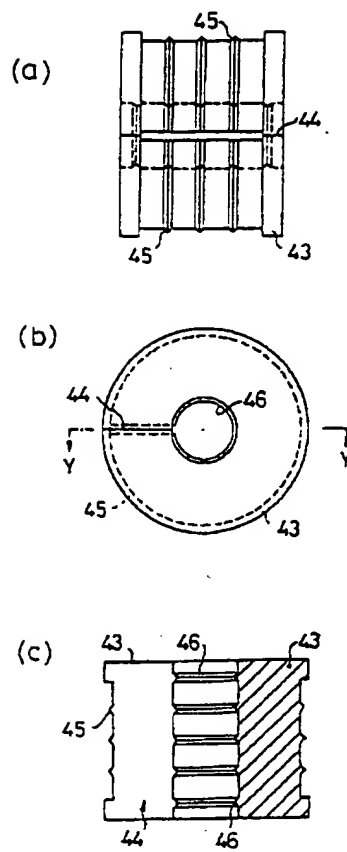
【図16】



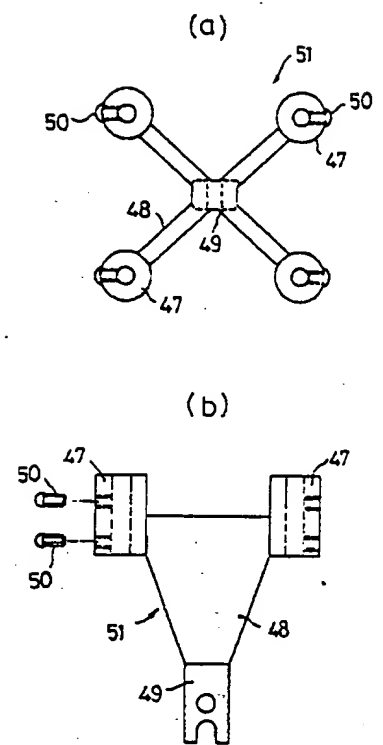
【図13】



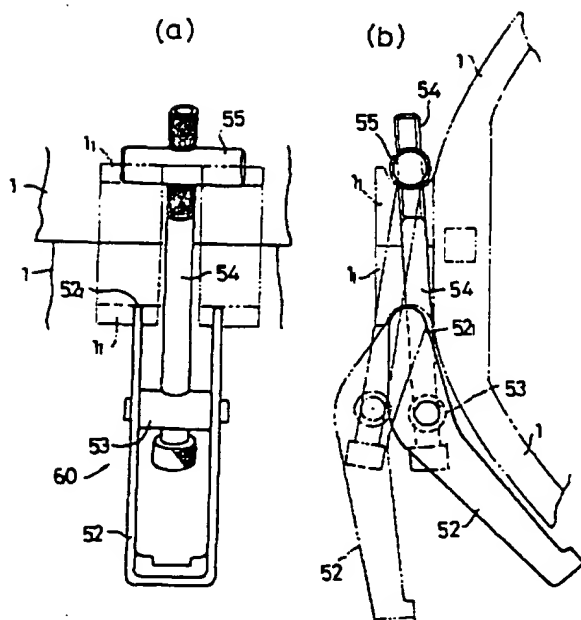
【図14】



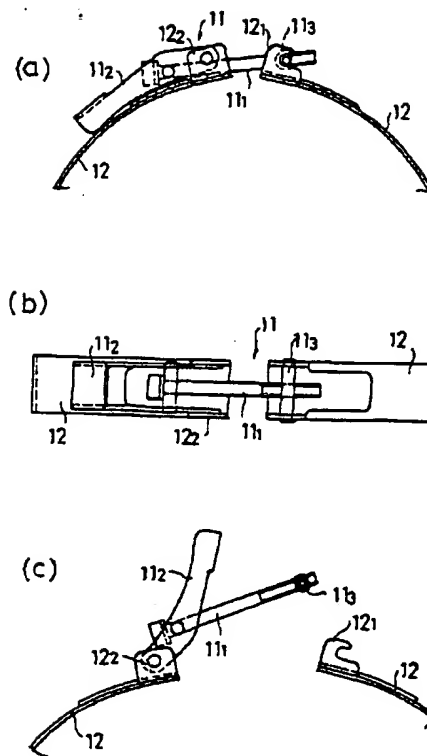
【図17】



【図19】



【図18】



フロントページの続き

(72)発明者 服部 忠
東京都目黒区碑文谷一丁目25番17号 株式
会社トーツー創研内

(72)発明者 峰島 謹司
東京都目黒区碑文谷一丁目25番17号 株式
会社トーツー創研内

(72)発明者 山際 孝次
東京都千代田区内幸町一丁目1番6号 日
本電信電話株式会社内

(72)発明者 岡本 浩二
東京都千代田区内幸町一丁目1番6号 日
本電信電話株式会社内